

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高槻 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	長文読解問題で、題意を正しく捉えることに課題がある。
	よくできた問題	文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える問題の正答率は、全国平均を上回っている。
	努力が必要な問題	漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
算数	全体的な傾向や特徴など	数の処理や図形の構成の仕方について、全国平均を上回っている。モデル文に沿って記述することを得意とする傾向にある。
	よくできた問題	自分の考えを整理し順序立てて記述することについて、全国平均を上回っている。
	努力が必要な問題	百分率で表された割合を分数で表すことに課題がある。
理科	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題より、記述式の問題の無答率が高くなっている。題意を正しく捉えることに課題がある。
	よくできた問題	課題解決までの道筋を構想したり、導き出した結果をもとに自分の考えをもったりする問題では、全国平均を上回っている。
	努力が必要な問題	「メスシリンダー」のような器具の名称、理科用語等の理解に課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>人の役に立ちたいと考えている児童や、地域行事に参加し社会をよくすることに貢献したいと考えている児童が全国平均を上回っている。ICT活用に積極的に取り組み、授業での発表や意見交流場面での活用状況が全国平均を上回っている。算数科学習が好きだとする児童が全国平均を上回っている。スマートフォン等での動画視聴が2～3時間以上の児童が増えており、家庭でのルール徹底に課題がある。土・日曜日や学校の授業以外に計画を立てて学習している割合が全国平均を下回っている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業において、課題・めあて→結果予想・見通し→実験・観察→考察→まとめという授業の流れを意識して授業改善にさらに取り組む。書く活動、話し合う活動により自分の考えをもって意見交流をし、主体的に取り組ませる。問題文について日常の場面に対応させながら考えさせ、数量関係を表したり処理したりすることができるように指導する。チャレンジタイムにデジタルドリルアプリ活用を推進し、学習内容の習熟を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習チャレンジハンドブックの活用を今後も推進し、家庭における学習習慣の形成に向けて、学級指導や学校通信等を通じて啓発に努める。